



2024年 新年のご挨拶



印刷情報メディア産業労働組合連合会
中央執行委員長 佐藤 正治



2024年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。印刷労連に加盟する構成組織の組合員とご家族の皆様、そして組合役議員の皆様には、健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より、印刷労連の諸活動に対しまして、各段のご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、日常の社会・経済活動が正常に戻りつつあります。これも日本人の気質である、お互いを尊重し、助け合う気持ちがあったから出来たものと誇らしく思います。今後も皆さんと共に、この気持ちを大切にしたいと思います。

さて、印刷労連は、昨年9月2日に第30回の定期大会を開催し、運動方針の確認と合わせて、新たなスローガンを「産業政策の実現に向けて新たな一歩を!」としました。具体的な運動方針としては、①産業政策の実現、②組織の充実・強化、③総合的な労働諸条件維持向上、④ジェンダー平等の推進、⑤組織運営と人材育成、⑥労働者福祉の向上、⑦組織の社会的責任と国際平和の7項目を掲げています。

この中でも、特に重点をおくテーマについて触れたいと思います。1点目は、産業政策の実現です。コロナ禍を経験し、働き方も社会システムも大きく変容する中で、産業政策を大幅改定しました。企業を取り巻く環境変化は、企業内だけで解決することが難しくなっており、国政や行政からの積極的なアプローチが重要性を増しています。印刷労連としては、産業政策を基軸に、支援議員であります「浜野よしふみ」、「竹詰ひとし」参議院議員に対し、印刷産業の課題について産業政策の要望書を提出し、魅力ある印刷産業の実現に向けて継続して取り組んで参ります。

2点目は、総合的労働条件向上として、2024春闘における賃上げの継続を実現することです。昨年は30年ぶりの大幅賃上げとして、メディアでも大々的に報じられました。これにより、デフレからの脱却の足がかりが出来たかも知れませんが、しかし、現実を目を向ければ、継続した物価高騰により、実質賃金は物価上昇に追いつかず、私たちの日常生活が楽になった実感は乏しいと言えます。持続的な経

済の回復には、やはり確かな賃上げの継続が不可欠です。そのため、2024春闘は、「持続した賃上げが必要である」ことを、労使共通の認識として確認する春闘にしなければなりません。そして、その実現には、全ての構成組織が心を一つにすることが大切です。労働の価値は、労使の信頼関係による協議・交渉で決めるべきものです。今次春闘も組合員の皆さんと力を合わせ臨みますので、宜しくお願い致します。

3点目は、ジェンダー平等の推進です。本年度は、ジェンダー平等推進委員会として、専門委員会を設置し、大きな一歩を踏み出すことが出来ました。今後は、より多くの組合員の皆さんに、男女平等参画やジェンダー平等の必要性について理解を深めてもらう取り組みが重要と考えております。そのため、委員会を通じて様々な企画を検討し、その都度、発信していけるよう議論を深めて参ります。皆様には、今まで以上に関心を寄せていただくよう宜しくお願い致します。

以上、重点テーマについて触れましたが、印刷産業はコロナ禍を経験し、大きな転換期を迎えていると言っても過言ではありません。そのため難しい課題が出てくることも考えられます。しかし、過去の歴史が証明するように、産業は常に変革しながら成長し続けてきました。そして、その原動力は、そこに働く一人ひとりの情熱と挑戦にあります。印刷労連としても、お互いを尊重し、助け合う気持ちを大切に、まさに「いつでもそばにいる存在」として、組織が活力を持って様々な課題に前向きに取り組めるよう運動を前進させて参りますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。本年も宜しくお願い申し上げます。



2023年 連合「平和行動」参加

平和行動 in 沖縄〔日程:2023年6月23日～25日〕

わたしは、今から21年前の2002年(平成14年)11月、初めて沖縄の地を訪れました。その目的は単組の本部・支部書記局による平和研修であり、当時支部書記長であった私は若干37歳、初めて戦争と平和の実相を目の当たりにし、考え、学び、深く心に刻んだことを記憶しています。

2023年6月23日、沖縄は「慰霊の日」を迎え、連合主催の「平和オキナワ集会」に印刷労連の仲間10名で参加しました。この地を訪れ、平和とは、戦争とは何かを知り、未来に向けて何が出来るかを考え、行動する機会として捉え、現地視察学習(ピースフィールドワーク)では、印刷労連として初めて「基地コース」に参加しました。国土面積のわずか0.6%に過ぎない沖縄に、在日米軍基地・施設の実に70%が集中しています。辺野古、嘉手納、普天間、さらにはチビチリガマを回り、参加者それぞれがその場その場にて想いを馳せたことと思います。

「平和とは何か」、スローガンである「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう」の一番のポイントは「語り継ぐ」ことです。そのために、平和行動に参加し、現場を見て、学び、考え、語り継いでいく、このことをこれからも続けていただきたい。

印刷労連 前中央執行委員長 穴戸 良太



平和行動 in 広島〔日程:2023年8月5日～7日〕

印刷労連での私にとって最後の仕事が広島での平和行動でした。印刷労連の役員になる前、単組の中央執行委員になりたての私が初めて印刷労連の活動に参加したのもこの広島での平和行動でした。10数年の時を経て副執行委員長としてこの活動のリーダーとして参加できたことも何かのご縁かと思いました。

広島の平和行動は8月6日の原爆投下の日を中心とした活動であります。人類で初めて原爆という恐ろしい兵器が使われ、約14万人ともいわれる犠牲者が出たのが、1945年8月6日。その後長崎にも投下され、更なる犠牲者が生まれました。このような被害を二度と出さないという、被爆者の皆さん、広島の方々の強い思いが、この行動に参加するメンバーの心に平和や核兵器廃絶の思いを脈々と伝えて、広めてきております。私の初参加当時には、戦後時が流れて、「語り部がいなくなる」という課題があり、現在では広島の高校生たちが、その思いをひきつぎながら、平和への思いがつながっています。世界中に平和が訪れ、核兵器もなくなり、「このような平和行動がかつてあったんだ」というような時代が来るのが真の平和な世界の実現なのかもしれません。そのような時代が来るまで、後輩の皆さんがこの行動をつないでいくことを願ってやみません。

今回一緒に広島での平和行動に参加したメンバーすべてと想いを一つにして、私自身もこれからも平和について考え、伝えていきたいと思っています。

印刷労連 前副中央執行委員長 山野内 孝満



のご報告（沖縄・広島・長崎・根室）

平和行動 in 長崎〔日程:2023年8月8日～10日〕

連合主催の2023平和行動in長崎が8月8日開催され、印刷労連からは14名が参加しました。今年は通常開催として、集会とピースウォークを予定していました。しかし、台風6号の接近により、参加者の安全確保を優先し、ピースウォークは中止となりました。

1日目は、予定していた「2023ナガサキ集会」が長崎県立総合体育館で開催されました。主催者の連合本部清水事務局長からは、G7サミットに触れ、核兵器廃絶は国境を越えた連携と相互理解が求められ、その道を着実に歩むことが大切であることが話されました。被爆体験の実相を知る機会としては、山田さんから、惨状を描いた絵と共に話がされました。印象深かったのは、被爆して苦しむ友人や大人が、当時12歳の少年だった山田さんに助けを求める情景でした。その時の山田さんの心情に思いをはせれば、恐怖と不安は計り知れないと想像できます。

2日目は、原爆資料館の見学を行いました。参加者は、展示されている遺品の一つひとつに目を凝らし、決して真実から目を背けてはならない強い思いが、その姿から感じとれました。また、海外の見学者も多く見られました。世界の方々が実相に触れることで、恒久平和へつながることを期待したいと思います。見学後は、ワークショップとして「平和ってなんだろう？」をテーマに哲学対話を行いました。「平和」について対話を重ねることで、日常の生活から見えてくる「平和」の一コマこそが、「平和」を実現する一歩であると感じました。また、参加者が共感できたこと、それは「笑顔」でいられることこそが、「平和」を創ることにつながるということでした。対話終了後、参加者から「平和」につながる「笑顔」が溢れていたことは言うまでもありません。今回参加された全ての方々、そして、運営にあたってサポートいただいた関係者に心から感謝し、報告とします。

印刷労連 中央執行委員長 佐藤 正治



平和行動 in 根室〔日程:2023年9月9日～11日〕

2023年9月9日～11日に渡り、平和行動in根室に印刷労連から10名が参加しました。広大な北海道、根室までの道のは釧路空港からバス移動で2時間以上かかります。

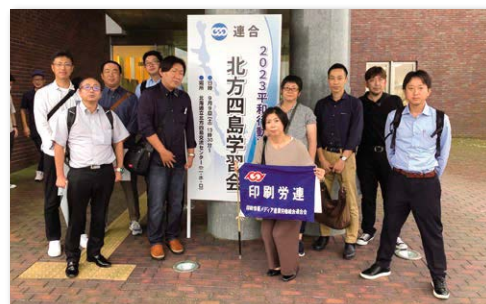
初日は、学習会に参加、(1)「歴史から見たロシアのウクライナ侵略と北方領土問題」、講師・石川一洋氏(ジャーナリスト)、(2)「北方四島の自然と領土問題」講師・本間浩昭氏(毎日新聞記者、特定非営利活動法人北の海の動物センター理事)の講話をいただきました。

二日目の10日は、連合主催の「2023平和ノサップ集会」を、望郷の岬公園で、「北方領土(択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島)の返還!日ロ平和条約の締結を!」をテーマに開催され参加、全国の構成組織・地方連合会から計863名が参加しました。

北方四島の一括返還と日ロ平和条約の締結を通じて、北方領土問題を早期に解決し、真の意味での戦後を迎える必要があるとしながらも、ロシアによるウクライナ軍事侵略以降の流れについては、これまで日露平和条約締結に関わってきた両国関係者の努力を蔑ろにするにとどまらず、両国の関係を1956年の日ソ共同宣言締結にもとづく国交回復以降、最悪の状況に貶めるものだと言わざるをえない状況です。

北方領土は、まさに目と鼻の先であるにも関わらず、今は、遠い場所となっています。元島民の方々は、ふるさとに戻れず、自由に訪れることもできず、78年が経過しました。ビザなし交流や墓参なども中止されており、元島民の平均年齢は87歳を超えた今、残された時間は決して長くないことも認識することとなりました。日本政府には、日露関係の改善、そして、その先にある北方領土問題の1日も早い解決に向けて、粘り強い外交努力を求めていると思います。今回、参加者全員が平和行動に初参加ということで、事前に北方領土について学習をしてこの行動に臨んだ方もいらっしゃいましたが、やはり実際に目で見て直に話しを聴くことで得られることは大きいと実感する機会となったようでした。各組織において、活動の周知をいただき、引き続き継続した運動を進めていきたいと思います。

印刷労連 副中央書記長 古賀 初代



連合ジェンダー平等集会が開催されました！



■基調講演

本田一成氏による「クミダンの『壁』～クミジョ・クミダン問題を科学する～」

※「クミジョ」とは労働界でかんばっている女性の総称、男性は「クミダン」

■パネルディスカッション「クミジョが活躍するための突破口はどこにあるのか？」

各労働組合や地方連合会における女性活躍のための工夫を聞くことができました。

子育て中の組合役員も参加しやすいように、
定時後や休日の会議は子連れOKという取り組み事例もありました。

当日の資料や動画は下記よりご覧いただけます。

【資料】 <https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/meeting2023/>

【動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=cBPFO0fcT1o>



矢澤直輝

考え方や感性は人それぞれですので、女性・男性という括りで決めつけないように気をつけたいですね。



佐々木冴子

調査データによると、組合活動における悩みとして、「自分の時間や家庭生活が犠牲になる」と答えた人は、女性 38.5%、男性 48.4% のようです。
男女問わず、課題なのですね！動画だと、3:48:10 あたりです！



大浦一泰

各労組によって、課題や展開できる活動に違いがあると思います。今回の講演やパネルディスカッションのみならず、各労組の環境や状況に応じた、活動に繋がるヒントを得て頂き、少しでもジェンダー平等が進むようにしていきたいところです。



村田茂陽

「セクハラ」に関する相談は少なくなり、改善しているもののまだまだ平等とは言えない職場が多いかと思います。
連合版「ジェンダー監査」で課題を再認識し、取り組めるところから積極的に取り組みましょう。

参考：
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/kansa/>



古賀初代(委員長)

男女が互いに理解し合うことが大切ですね。
2:45:00 くらいからのパネルディスカッションではパネラーの経験をもとに突破口は何か！の話へ展開されています。
各組織においても役立つ情報もあるかと思しますのでぜひご覧ください。

一編集後記一

あけましておめでとうございます。新しい年、新しい活動、新しい出会い…、皆さん期待に満ち溢れたお気持ちでお過ごしでは無いでしょうか!?しかしながら、時には過去を振り返り、過去からの教訓から学び、後世に伝えていくことも組合活動では大切です。世界では今も紛争が絶えません。平和行動のご報告にもお目通しいたゞき、ぜひ過去から学ぶ時間も作っていただければ幸いです。(杉山)

「もしも」に備え
「もしも」を防ぎ
「もしも」に向き合う。

「みんなであすけあい。豊かで安心できる社会」の実現に向け、
皆さんとともに取り組んでいきます。

「くみん共済 coop」は営利を目的としない協会の組織として経済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、会費金を払い込んでいただくと、組合員の皆さまの経済生活の安定と安心のために必要な事業活動に活用させていただきます。

くみん共済 **金勢済**

“ろうきん運動”と“SDGs”

組合員のためのろうきん運動の推進が
“実は”SDGsの達成につながっています！

ろうきんは、組合員はたらく人の「可処分所得向上」や「お金に関する知識の向上」をめざし、労働組合と一緒にセミナーや学習会の開催などに取り組んでいます。また、ろうきんでお預かりしたお金は、組合員のニーズに応じた融資やESG投資などに活かされています。
労働組合をはじめとする会員のみなさんの組合員とその家族の暮らしを守るために行うろうきん運動の推進が、実はSDGsの達成につながっているのです。

詳しく知りたい方はこちらから
https://ai.roukin.or.jp/about/roukin_sdgs/

お近くのろうきんのウェブサイトはこちら

ろうきん